

一般社団法人 薬学教育協議会

平成 30 年度実務実習の良い事例集 (項目別)

— 施設について —

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

目次

薬局実習

薬物療法の実践	3
在宅医療における薬物療法の実践	4
医療連携の体験	5
チーム医療の実践	5
地域包括ケアの実践	6
協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施	7
災害時医療の体験	8
充実した実習環境と指導体制の構築	8

病院実習

薬物療法の実践	11
医療機関におけるチーム医療の実践	12
医療連携の体験	14
協力病院とのグループ（他施設）実習の実施	14
災害時医療の体験	14
充実した実習環境と指導体制の構築	15

凡 例

- ◇ 大学・学生側から見た良い事例を集めました。
- ◇ 大学名：非公開
- ◇ 記載事項：
 - 区分：病院、薬局
 - よい実習を行った各施設の特徴（見出し）
 - 具体的な説明（概要）及びまとめ
- ◇ 実務実習実施日程（原則）
 - 第Ⅰ期：平成30年5月7日（月）～7月22日（日）
 - 第Ⅱ期：平成30年8月6日（月）～10月21日（日）
 - 第Ⅲ期：平成30年11月5日（月）～平成31年1月27日（日）

【患者対応教育の充実】

服薬指導件数は100件を超えていた。

【服薬指導件数の充実】

2ヶ月半で約200回の服薬指導を経験できた。

【患者さんと服薬指導をしている中で、最適な薬物療法を提案した例】

実習期間中、何度も服薬指導を行っていたが、その患者対応の中で最適な薬物療法を提案した例を紹介する。薬物療法や患者さんの思いにも深く関わり始めた実習の中旬以降、患者から分3から分2の薬へ変更の希望を受けた。指導薬剤師と添付文書等を確認しながら、その可否を検討した。変更可能と判断し、処方医への処方内容の変更を提案した。実習生は、頻回に患者と関わることで、薬物療法について深く理解し、患者の思いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学ぶことができた。

学生の顕著な成長：薬物療法について深く理解した。患者の思いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学んだ。

【数多くの服薬指導の実施】

実習第7週目からのカウンター業務であるが、5週間集中して100件以上の数多い服薬指導の経験ができる。また、高齢者施設調剤、在宅医療、OTC、薬局製剤、学校薬剤師等、満遍なくどの項目も実習が受けられる。総合病院の門前であるため、様々な処方せんの調剤、処方解析を経験することができ、指導薬剤師からのフィードバックもしっかりとしており、大変充実した実習を受けることのできる薬局である。

学生の顕著な成長：数多くの調剤、服薬指導を経験し、患者さんと触れ合う薬剤師としてのやりがいを実感し、患者サポートに関するスキルを身に付けることができた。また、どの実習項目もしっかり受けられることができ、幅広い知識を吸収することができた。調剤薬局では地域医療における貢献度が大きいということの理解をさらに深めることができた。

【コミュニケーションスキルを磨く】

指導薬剤師との話し合いでより多くの投薬指導を希望し、最終的に初診・再来患者を含めて約250名の患者への対応が可能となった。

カルテがない中で、会話を通しての情報収集と短時間で要点を得た指導方法の術を学ぶことができた。結果として、多くの疾患に関わることで薬物療法への理解が一層深まった。

【薬物血中濃度及び検査値を用いた処方提案を学ぶ】

精神疾患系の処方せんを多く受ける施設において、バルプロ酸ナトリウム等のTDM値とアンモニア値などの血液検査値を参考にして、薬物療法の効果と副作用について確認し処方提案に繋げることを学んだ。

【居宅訪問を行い、生活状況の確認をふくめた服薬指導（3回）を行った例】

第1週目から薬局内での服薬指導を開始した。また、施設に入居している方に、3回の服薬指導（同一患者）をさせていただいた。在宅訪問の3回の服薬指導の中で、足のむくみを見るためのフィジカルアセスメントも実施することができ、薬の主作用のモニタリング、副作用のモニタリングを実施することができた。服薬に関する指導だけではなく、患者さんの生活状況と施設内での悩みも確認することで、患者さんに寄り添うことが大切であると気づくことができた。同一患者さんに服薬指導を繰り返し行うことで、患者さんの心が開き、実習生でありながら、患者さんの相談役になってよく様子が見て取れた。

顕著な成長：在宅医療に関わることで、薬物療法について深く考察することができ、生活環境の確認の重要性を学んだ。

【数多くの在宅患者さんへの関わり】

実習第一週目から毎週在宅医療に関わることのできる薬局である。在宅だけでなく、特別養護老人ホームへの医師、看護師の訪問診療に同行することができ、貴重な経験ができる。また、製薬企業、病院薬剤師、薬局薬剤師が連携し、有害事象報告に関する研修会を実施し、医薬品安全性情報報告書の記載方法、PMDAへの通達方法などについて症例を用い、学生に学ばせる機会を設けている。早い時期から服薬指導を経験することができ、大変充実した実習を受けることのできる薬局である。学生の顕著な成長：様々な家庭への訪問に同行させて頂き、在宅医療は患者さんの生活を考えて行動を起こす必要があることを学び、そして患者さんの生活を多職種で支えるチーム医療・生活支援であることから、在宅医療の質を高めるためにもチーム力、多職種連携の重要性について理解を深めることができた。

【在宅訪問時の深い介入の実施】

在宅訪問時に指導薬剤師とともに患者の日常生活を考慮した深い介入を実施し、在宅業務の重要性を学ぶことができた。

【在宅医療】

認知症患者宅への訪問薬剤管理指導に同行し、問題点を考えて服薬支援を行った。

【一人の在宅患者さんに深く関わりながら実習を行った例】

実習期間中、在宅患者を担当させていただき、同じ患者さんを複数回担当することができた。その中で、薬物療法だけでなく、患者さんの想いや多職種との連携まで体感することができた。実習生は、初回の在宅では知ること、感じるができないことが、同一患者と関わることで、薬物療法について深く理解し、患者の想いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学ぶことができた。

学生の顕著な成長：薬物療法について深く理解した。患者の想いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学んだ。

【在宅ケアの体験】

在宅訪問に同行し、実際のケアを体験することができた。

【担当した在宅患者さんの処方について医師に情報提供・処方提案を行い、

処方の変更につながった例】

実習期間中、学生は継続して在宅患者さんを担当させていただき、薬物療法や患者さんの思いにも深く関わりながら、薬物療法について深く考えることができた。また、「患者さんにとっていちばん改善してほしいことは何か」を考えられるようになった。医師へ処方内容の提案を行うこともでき、結果、処方変更につながった。今回の実習を通して学生は、医師などの多職種と連携をとり、良い信頼関係を構築することは、患者さんにより良い医療を提供できることにつながるということを学ぶことができた。

学生の顕著な成長：薬物療法についての深い理解。薬物療法などについて、医師などの多職種に情報提供し協議する重要性。

【在宅医療】

在宅医療の実習で、ターミナルケアから看取りの過程を体験できた学生から高評価があった。

—医療連携の体験—

【地域医療連携】

個人医院の診療見学や患者教室などの地域医療に関連した実習の実施

【地域連携】

近隣クリニックの医師や薬局薬剤師による糖尿病の勉強会を定期的で開催している。実習生も参加を許されており、多施設の医療従事者の意見を聞く機会になっている。

—チーム医療の実践—

【多くの経験と外部研修】

全国在宅医療医歯薬連合学会にも二日間行かせていただき、在宅医療に関する地域連携・他職種連携など貴重な体験をさせて頂いた。

【在宅医療の現状】

在宅訪問を行い、高齢の患者に対して、薬剤師、看護師、医師だけではなく、ケアマネジャーや訪問介護士など多くの職種が関係していることを実感することができた。また、家族の問題など普段表に出てこない部分にも遭遇し、在宅業務に係ることの重要性と共に、「人と関わる」ことの意味を認識することができた。

【地域の多職種連携を体験できた例】

基幹病院が中心となり、介護老人施設、特別養護老人施設等と連携している地域の中で、他職種との連携を体験し、副作用の早期発見のためには、多職種間の連携が重要であることを実感することができた。

学生の顕著な成長：薬物療法について深く理解でき、副作用と疑われる症状を、看護師と情報共有することにより、医師へ代替薬を提案し処方変更へつながった。薬物治療上の問題点を解決するには、地域での多職種連携が重要であると考察することができた。

【医師カンファレンスへの参加】

近隣のクリニックへ指導薬剤師と訪問し、処方医から患者様の病態について説明を頂いた。カンファレンスにより処方意図を理解することができた。

【在宅医療におけるターミナルケアの患者さんとの体験】

実習中の在宅医療実習で、多くの患者と関わる事ができた。特に、ターミナルケアの患者では実習中に逝去された方も経験し、薬剤師、看護師他の医療従事者がターミナルの患者に対してできることは少なく、その中で家族を含めた全体でのサポートの重要性を感じる事ができた。家族の方が「薬剤師や訪問看護師のおかげで安心して療養できている」とおっしゃられ、この一言で在宅業務の重要性、在宅における薬剤師の存在意義を再認識し、より経験を深めたいと思うことができた。

—地域包括ケアの実践—

【かかりつけ薬剤師の意義を学ぶ】

透析を受けている患者さんの処方を受ける機会が多く、11週に渡って継続した服薬指導を担当させてもらった。検査値による処方チェックばかりでなく、健康食品や生活全般にわたる相談にも携わらせていただいた。患者さんからも「学生さんに服薬指導をお願いしたい」と希望していただけるようになった。一人の患者さんのために少しでも役立ったことがうれしかった。

【在宅・学校薬剤師などの地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

介護施設や老人ホーム、自宅への在宅業務、学校薬剤師・地域での薬剤師活動等の幅広い薬局業務に参画し、地域包括ケアにおける薬局の重要性を体感することができた。

【地域連携実習の充実】

地域の基幹病院と一部開業医の方を含むその他の医療施設の協力のもと、薬局との多職種連携地域医療実習を実施していただき、内容も学生参加型のものを数多く取り入れていただき、学習効果の向上がみられた。

【地域連携実習の充実】

開業医の方の協力のもと、在宅医療、外来診療における、薬局との連携実習を取り入れ、かかりつけ薬局としての機能を多角的に学ぶ実習を実施していただいた。

【健康サポート薬局等の地域包括ケアにおける様々な薬局業務への参画】

健康サポート薬局等の地域包括ケアに関する薬局業務に実際に携わることができた。

【処方箋調剤以外の薬局サービス提供の現場を体験】

地域住民向け健康教室において講師役を経験させていただくことにより、地域薬局の果たすべき重要な役割を実感することができた。

【薬局の取組】

地域に根差した薬局で、施設内に無菌調製のクリーンルームの設置があり、学生は薬局で無菌の調製ができると思わなかったと喜んで、実習に取り組んだ。また、気になる患者さんには、積極的に電話をかけ、服薬状況や副作用のモニタリング等を実施している。学生も何人にも電話をして服薬説明後の患者の状態の把握ができた。また、近くに薬局が地元の方々が集まれるような施設とその中にカフェを用意しており、薬や健康にかかわるイベントを実施している。このような行為に保険点数はついていないが、出来る施設が行うことで、実績を積むことが必要だと考えているとの事だった。

—協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施—

【エリアマネージャーと同行した多施設実習】

指導薬剤師はエリアマネージャーを兼ねており、指導薬剤師と同行して多施設実習を行った。各施設の応需処方により、代表 8 疾患を網羅して学習することができた。

【グループ薬局間での集合実習】

実習途中で他施設の実習生と情報交換する機会にもなり、学習効果とストレス軽減が期待できる。

【実習内容の偏りに配慮する施設】

1 店舗では処方内容が偏るため系列他店舗での実習を通して種々の領域の処方に触れることが出来るよう配慮頂いた。各店舗の移動が実習生の負担にならない様送迎する等配慮が有った。

【グループ薬局間での集合実習】

実習途中で他施設の実習生と情報交換する機会にもなり、学習効果とストレス軽減が期待できる。

【実習内容の偏りに配慮する施設】

1 店舗では処方内容が偏るため系列他店舗での実習を通して種々の領域の処方に触れることが出来るよう配慮頂いた。各店舗の移動が実習生の負担にならない様送迎する等配慮が有った。

—災害時医療の体験—

【災害・緊急時の対応の体験】

長期停電等の災害・緊急時の対応を実際に体験することができた。

—充実した実習環境と指導体制の構築—

【薬業連携】

入退院時の患者情報の共有体制が整っている。

【薬業連携】

カルテ情報の共有の取り組みがある。

【地域に密着した薬局】

夫婦で経営する薬局だったが、地域住民との関係が良く服薬指導も受け入れてくれやすい環境だった。

【薬局サービス提供の現場を体験できる施設】

健康サポート薬局でもあり、健康イベントなどの参加など、さまざまな体験ができる。

【地域医療を学ぶ薬局】

在宅に力を入れている、地域に密着したかかりつけ薬局として、地域医療を学ぶには最適の薬局

【在宅医療】

在宅医療の実習で、地域包括ケアについて、体験することができるプログラムが企画されており、学生の評価もとても高かった。

【万全な準備と的確な指導】

この薬局は、地域に根差した医院の門前薬局で、在宅医療に重点を置き、医師に同行在宅医療を行っている。学生受け入れのために医師及び居宅患者に学生同行の承諾を得て準備していただいた。学びたい症例を決め、それに対して具体的な目標をアドバイスしていただき、非常に積極的に実習を行うことができた。

【服薬指導に十分な時間をかけられる環境にある薬局】

教員が訪問すると、服薬指導に十分に時間をかけている様子が毎回伺えた。学生も、ゆっくり服薬指導ができる環境に対し満足していた。恐らく、処方箋枚数に対する薬剤師数にゆとりがあるため、このような服薬指導が可能なものと推測される。

【実習初期からのカウンター業務実施】

実習第一週目からカウンター業務を実施しており、11週間で数多くの服薬指導の経験ができる。また、健康サポート薬局、在宅医療、OTC、薬局製剤、学校薬剤師等、学生に不平等が生じないように地域での連携がしっかりしており、どの項目の実習内容も手厚い指導が受けられる。特に早い時期から服薬指導を経験することができ、大変充実した実習を受けることのできる薬局である。

学生の顕著な成長：数多くの服薬指導を経験し、薬剤師としてのやりがいを実感し、患者サポートに関するスキルを身に付けることができた。また、どの実習項目もしっかり受けることができ、幅広い知識を吸収することができた。

【健康サポート活動に力を注いでいる施設】

調剤や在宅だけでなく、予防にも大きく取り組んでいる施設で、健康イベントや講演を通して、地域での薬局の重要性を体験できる施設である。

【参加体験型実習】

実習初日から患者対応を実習させた。

【信頼できる薬剤師】

- ・ 学生が尊敬できる薬剤師
- ・ 学生の成長に合わせて指導していただいた。
- ・ 日誌へのコメント内容が示唆に富み、大変良かった。

【学生の能力に合わせた実習】

日本語が苦手な学生（家庭内の会話が主に外国語）に対し、実習の説明に対し、学生の理解を確認しながら進めてくれた。

【実習指導方針の良い施設】

”自分で考える”ということに重きを置いている指導薬剤師であったので、考える力が身についたと思うとの学生から届いた施設であった。

【症例検討が多く学べる薬局】

症例検討を多数行ない、疑問点にも答えを返してくださった為、学生が実力をつけることが出来き、充実した実習であったと感じる事が出来た教育を行っている。

【実習環境の整った施設】

薬剤師業務を偏りなく教育した。

【実習生2名が充分経験できる薬局】

- ・ 適度な処方箋枚数で薬局業務としても適度な余裕がある。
- ・ 指導薬剤師は様々なレベルの学生がそれぞれ成長していくことを楽しまれている。

- ・ 県内では数少ない健康サポート薬局
- ・ サポート薬局立ち上げにも本学の実務実習生が貢献出来ている。

【実習生に寄添い成長を促す施設】

初回インタビューや服薬指導を数多く経験させた。

中には（学生にとっては）対応が難しい例もあったが、学生は葛藤しながら服薬指導を行い、その日の日誌に正直な気持ちを記載したところ、指導薬剤師の的確なフィードバックが有った。

指導薬剤師が常に学生の気持ちに寄添い、考えながら実習を行える雰囲気をつくったことで学生に大きな成長がみられた。

【指導体制】

指導薬剤師以外に、実習生をサポートする担当者を配置しており、学生が安心して実習できる環境を構築されているところです。

【指導薬剤師と薬剤師スタッフが連携した指導体制】

指導薬剤師が多忙のため不在の日があり、当初、学生は不安な気持ちを抱いていた。指導薬剤師が不在の際は、実習計画書に基づき、薬剤師スタッフがきちんと指導し、指導薬剤師と薬剤師スタッフの連携により、学生は充実した実習を行うことができた。

【熱心な教育と学生が調べる時間の確保】

指導薬剤師が学生に熱心に教え、学生が分からないところがあれば PC 等で調べる時間を十分に与える。

【投薬後の反省点のしっかりした教育】

学生に投薬を積極的にさせて、投薬した後の反省点などもしっかり教える。

【実習生の自己紹介ボード】

実習初日に似顔絵のイラスト付きで実習生の自己紹介ボードを作成した。実習期間中、待合室へ掲示していただき、カウンター実習では患者様から親しみを持って接して頂きコミュニケーションがスムーズに取れた。

【実習生同士の交流がある薬局】

他大の実習生との交流があり、実習期間中も他大学の学生との交流がスムーズに行われた。

【漢方専門薬局での漢方薬調剤】

葛根湯の構成生薬を秤量し、煎じ薬を調製した。その際に、生薬の味や香りを体験しながら、漢方医学の診断方法について学んだ。また、薬研で生薬の粉碎を体験して、薬研の重量感などを直に感じるなど、漢方専門薬局ならではの実習を体験した。

【医師へ積極的な処方提案】

がん専門薬剤師の医師とのやり取りに参加させていただき、学生が、がん専門薬剤師を目指したいと言うほどになった。

【継続的な患者への関わり】

病院実習中、肺がんで入院された患者さんを長期にわたって担当させてもらった。がん化学療法施行にあたって、髪の毛が抜けづらい治療、吐き気が出ない治療など患者の要望を聞き取り、チームへ情報提供するなど患者に寄添う実習を体験できた。また継続して1人の患者を担当させてもらうことで副作用軽減や治療効果の評価などを繰り返し学ぶことができた。

【病棟業務の適切な指導】

病棟業務において、学生の収集した患者情報が充実しており、症例報告に値するものであった。薬物治療の選択についてもエビデンスに基づいたものであり、薬物治療の基本的な知識、態度を習得する上で学生にとって有意義な経験となった。

【水薬のアドヒアランス改善に関する提案】

脳圧降下薬（水薬）は苦味によりアドヒアランスが低く病棟スタッフが困っていた。そこで文献を調査し、清涼飲料水と等量混合すると味覚を改善できることが分かり、主治医の同意を得て患者様にも試飲していただき、この方法でアドヒアランスが向上した。問題解決の意識を持って実習へ取り組むことができた。

【精神科領域での服薬指導】

統合失調症で入退院を繰り返しているような難しい症例も、実習生が担当させて頂き、服薬指導を実施している。

【ポリファーマシーへの取り組み】

併用薬が多いと感じた症例において、アドヒアランスの低下はないか？有害事象の発現はないか？目標とする効果は得られているのか？漫然投与ではないか？減薬を検討するうえでチェックすべき事項について、検査値の確認や患者インタビューを用いる等、具体的に学ばせてもらった。また医師への処方変更依頼後のモニタリングの必要性とその方法についても学び、さらに実習を深めることができた。

【常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）患者におけるトルバプタン治療管理】

ADPKD の病理とトルバプタンの作用機序をよく理解医した上で、トブバプタン投与後の患者の体重減少を患者の飲水量と薬剤による利尿効果の不均衡から解析し、問題解決を試みた。学生の顕著な成長：ADPKD という疾患の病理、治療方法を調査するとともに電子カルテから患者の体重や飲水量に関する情報を的確に把握し、薬剤の副作用対策を考察することができた。

【外来化学療法を受ける患者に対する薬学ケアの実践】

外来化学療法を受ける患者への薬学ケアを実践し、学習することができた。

【小児病棟における難治性疾患の薬学的管理】

小児病棟に入院されている遺伝性疾患や代謝異常症の薬学的管理について学び、疾患の多様性を知った。

【TDM 対象薬の血中濃度測定値の適切な評価と副作用のモニタリング】

病棟業務および TDM 業務の指導レベルが高く、学生にプロブレムリストおよび初期計画を作成させ、シクロスポリンの血中濃度の適切な評価と副作用のモニタリングについて指導している。また、小児の腎機能評価を行った上での投与量の変更も検討しており、処方変更後の血中濃度も確認することができたため、学生にとって価値のある病院実習を経験することができた。

学生の顕著な成長：小児におけるシクロスポリンの適切な投与量を把握し、副作用を継続的にモニタリングする力を養うことができた。

【抗がん剤によるアレルギー反応時期に関する患者指導タイミングの工夫】

抗がん剤のオキサリプラチン投与時におけるアレルギー反応の好発時期について、患者指導を行う上で従来では外来での投与 1 回目の時のみに行っていた。しかし好発時期にも説明をした方が良いのではないかと考え、昨年度から直近でオキサリプラチン投与患者を調査し、累積投与量とアレルギー発症時期との関係について検討を行った。その結果、累積投与量 700~900 mg/m²でアレルギー症状を発症していることがわかった。

学生の顕著な成長：実際行われている事の中から学生自ら興味のあることを見つけ出し、さらにその事柄についてどの様に発表するかを考えた成果がみられた。

【副作用報告】

学生が実習中に会った副作用事例について、報告資料を作成し PMDA に報告した。

—医療機関におけるチーム医療の実践—

【チーム医療への一環した参画】

NSTの専任薬剤師が指導薬剤師となり、11週間一貫して学んだ。

入院時の患者さんの栄養評価から始まり、最適な栄養療法の選択、退院指導へとチームラウンドも交えた実習は学生にとって満足のいく実習となった。

【カンファレンス参加】

各種カンファレンスに参加し、多くの他職種の意見を聞く機会が設けられている。

【チーム医療】

ICU 実習で多様な職種のアプローチの違いを実感でき、モチベーションが上がったようだ。

【てんかんカンファレンス】

医師、薬剤師および看護師を含む多職種が集まるカンファレンスに参加し、てんかんの症例について協議する。

【実習早期からの病棟業務の実践】

実習開始 2 週目から病棟業務における薬剤管理指導の実習を施行している。多くの病棟を経験することができ、さらに ICU での薬剤師の関わりや、TDM についても経験することができる。新カリキュラムの実務実習に向けた 8 週間に近い 7 週間の病棟業務を実施しており、数多くの服薬指導が経験できる。緩和ケア、褥瘡対策、糖尿病教室等のチーム医療への参画の体験も積極的に行い、近隣の病院とも連携し精神科疾患、人工透析の症例などにも関わることができ、11 週間学生にとって有意義な経験となった。ドクターヘリ事業も実施している病院であり、貴重な経験ができる実習施設である。

学生の顕著な成長：実習早期からの病棟業務の実施及びチーム医療への参画や TDM 体験を通して、患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。

【実習早期からの病棟業務の実践】

精神科を主体とする病院であるが、他の診療科も備わっており、8 疾患に対応が可能な病院である。実習開始 4 週目から病棟業務における薬剤管理指導の実習を施行しており、病棟での服薬指導を多く経験することができる。他の病院であまり経験することの出来ない、精神科の患者（アルコール依存症、統合失調症、鬱病等）への服薬指導を多く経験することができ、そのスキルを学ぶことができる。緩和ケア、NST 等のチーム医療への参画の体験も積極的に行い、近隣の病院とも連携し人工透析の症例などにも関わることができ、11 週間学生にとって有意義な経験となった。学生の顕著な成長：実習早期からの病棟業務の実施及びチーム医療への参画を通して、特に精神科患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。

【病院の特徴を生かしたチーム医療への参画】

CRC としてチーム医療に参画する病院薬剤師業務を治験症例の多い施設において体験できた。実際にカルテスクリーニング、被検者スクリーニング、併用薬チェック等の業務に同席させてもらい、コミュニケーション能力及び医学的薬学的知識を身に付けることの重要性を実感した。

【緩和ケアチームによる患者との関わり】

緩和ケアチームで 1 週間毎日同行して実習を行った。この 1 週間を通じて、緩和ケアは痛みの治療だけでなく、精神的なストレスや不安を取り除くことに重きを置いていることを感じることもできた。

【NSTでの看取り症例】

NSTのラウンドに同行し、その際に看取りの症例があった。最後にうなぎを食べたいという患者の願いにNSTは応えていた。このような生死に直接関わる場面で患者の希望に応えていける医療に出会い、患者中心の医療について改めて感じる機会を得た。

—医療連携の体験—

【地域医療連携実習】

急性期から慢性期における様々な施設を活用した連携実習の実施。

【退院時共同指導とかかりつけ薬局の薬剤師との連携の体験】

退院時共同指導に病棟薬剤師と同席し、参加しているかかりつけ薬局の薬剤師との連携を体験することができた。

【薬局の薬剤師との薬薬連携の体験】

地域の薬局の薬剤師との勉強会や様々な連携ツールを用いて、薬薬連携を体験することができた。

—協力病院とのグループ（他施設）実習の実施—

【他施設での実習経験】

基幹病院だけでなく、不足している実習項目を他病院で実施することで急性期や地域拠点病院等の施設の違いを学べた。

【他施設連携実習】

精神科領域、慢性期疾患を補う他施設連携実習の実施

—災害時医療の体験—

【災害時の対応を経験】（複数の病院）

6月18日の大阪北部地震で電子カルテがダウンし、医師が手書きする処方箋で調剤し、薬袋を手書きする等、災害時の対応を経験した。

【災害医療】

DMATによる災害訓練に患者役として学生が参加でき、災害時の薬剤師の役割が実感できたこと。

【実習環境の整った施設】

毎週決まった曜日に他職種の方の話を聞く機会がある。

【質の高い病棟実習】

薬効を評価し、薬物治療について医師と話し合いのシステムあり。

【医師へ積極的な処方提案】

カンファレンス参加など、薬物治療について医師および看護師と話し合いのシステムあり。

【カンファレンス】

医局カンファレンスに参加し、他職種連携の実際を目にする機会を設けている。

【医師へ積極的な処方提案】

病棟実習においては、実習生が薬学部教員と共に薬効・副作用を評価し、薬物治療について医師と話し合いを行っている。

【多職種連携が学べる施設】

他部署の見学などが多く、多職種の役割や連携が学べ、大変勉強になった。

【チーム医療を含めた地域医療の現場体験】

チーム医療に多く参加でき、また地域の特色である巡回診療に参加でき、地域医療の重要性を実感できる実習内容であった。

【チーム医療】

ポリクリ実習で、チーム医療の現場に参画することができ、ケーススタディを通じて、薬物療法を学ぶことができたこと、学生からの評価もとても高かった。

【チーム医療】

TDM 業務や ITC、NST などのチーム医療に参画できるプログラムが企画されており、学生からの評価もとても高かった。

【代表的な 8 疾患の履修確認】

病棟実習で病棟ローテーション時に実習した疾患名・実習内容を引き継いで効率的な実習を実施

【病棟実習の工夫】

8 疾患をこなせる様に、同時に 4 つの病棟で研修するスケジュールを組み、それを 2 回行うため、8 疾患を充足させることができる。4 つの病棟を同時に実習すると実習生の負担が心配されるが、実際は実習生のペースに合わせて担当患者 2~4 名を中心にモニタリングし、病棟に行きたい時にその

病棟薬剤師に電話をかけて連れて行ってもらえる方式。患者に介入したいタイミングで行くことができ、自分で調査して行動する力が身に付き、実習に対する積極性も高まる。

【実習早期からの病棟業務の実践】

大学病院であるため、どの疾患に対しても対応が可能である。実習開始1週目から病棟業務における薬剤管理指導の実習を施行しており、初回面談、服薬指導、持参薬管理等の病棟業務を多く経験することができる。4週間ずつ2病棟を担当し、計8週間の病棟業務の経験ができる。糖尿病教室、ICT、緩和ケア、NST等のチーム医療への参画の体験も積極的に行い、TDM、製剤業務、注射薬混注業務等満遍なく病院薬剤師業務を経験することができ、11週間学生にとって有意義な経験となった。さらに、調べものに利用するPCの充実、大学の図書館利用など環境にも恵まれており、学生の満足度の高い実務実習が実施されている。

学生の顕著な成長：実習早期からの病棟業務の実施及びチーム医療への参画を通して、患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。

【病棟での経験を重視した教育】

実習2期ということもあり調剤業務よりも病棟業務を重視し、ほぼ毎日病棟での服薬指導を行わせている（精神科、婦人科以外は全ての病棟）。

【8症例】

薬局実習にて体験した症例を指導薬剤師に提示し、不足症例にも関わられるようにしていた。

【地域の薬局と連携した学生の学習評価（薬薬連携）】

当該病院の実習では「処方解析」を精力的に指導しており、学生がどの程度、処方箋を読み解く力を付けたか、地域の薬局薬剤師とみんなで学生の成果を評価している。また、参加された薬局の指導薬剤師は、薬局実習でも取り入れ、みんなで成果発表会を実施した。

【ICTを利用した薬局病院間のビデオ会議試行】

病院との包括協定下の共同研究であるQ-PAS's（地域三薬学包括研究会）の取り組みの一つであるICTを利用した薬局病院間のビデオ会議について、その導入、マニュアル、試行について学生がまとめた。学生が作成した原稿を基にほぼ完成に近い形まで確認する事ができた。

【薬局の薬剤師との薬薬連携の体験】

地域の薬局の薬剤師との勉強会や会議に参加し、実際の薬薬連携を体験することができた。

【多職種連携による実体験】

レセプト作成、カルテ管理等の医事業務、病理部で摘出臓器の検体見学、検査部では、細菌検査室で細菌同定と抗菌薬感受性測定、採血室で全自動血球計測/臨床化学分析装置、運動負荷試験、心電図測定、脳波測定、臨床工学技士により医療機器の保守点検、など多岐にわたる実体験を行った。実体験することで多職種の役割と薬剤師業務との連携を理解することができた。

【実習環境の整った施設】

参考図書が充実している。

【質の高い病棟実習】

5名1グループで毎週月曜、4週にわたって、カルテを提示しながら症例検討する。

【学生の個性に合わせた実習】

実習当初、表情が暗く悲壮感が漂う学生であったが指導薬剤師が学生の個性に合わせた実習の進め方を行った結果実習終了時には自信が持てたようで非常に明るい表情になった。

【充実した実習スケジュール】

この病院では、午前・午後で指導担当薬剤師が変わるスタイルで行われている。そのため、実習内容も時間毎に変わり、一日の中で様々な内容を学ぶ事になっている。但し、学生の理解度によって実習内容を調整していただいた。

【丁寧な指導】

指導薬剤師が、どんな“小さな質問”にも詳しく答えており。また知識だけでなく薬学生として姿勢や薬剤師がどうあるべきかなど、学生にとりとても大切なことを教えている。

【患者指導】

病棟実習に加え、外来化学療法室での患者対応の機会を増やし、経験値を上げる努力をしている。

【多職種（学生）との共同実習】

看護学生等、医師及び歯科医師を除くほとんどすべての医療職養成の学生を一同に会し、共同実習をおこなった。ものごとを多角的に捉える気づきがあったと思う。

【実習環境の整った病院】

- ・ カリキュラムも指導体制もしっかりとしている。
- ・ 病棟での実習がこれまで2疾患だったのが、3疾患となり学習内容が広がった。
- ・ 複数いる薬剤師が充実した内容で実習を行ない、親切に質問に答えてアドバイスをしてくれる。
- ・ へき地医療の見学がある。

【実習環境・体制の整った施設】

- ・ 看護部が管理する研修スペース（定員90名）を使用させて頂き、FreeWiFiもあり、実習生は実習から日誌の記載まで行うことができる。
- ・ 薬剤部の薬剤師と薬学部の教員が連携を取りながら実習を進めている。そのため業務をより深く、幅広く実習することが可能となっている。

【選択実習の実施】

以前から実施しているが、最後の 2 週間、学生が希望する実習内容を行うことができる選択制度を導入している。8 週目終了時に評価を実施し、不十分な点を明らかにすることで、残り 2 週間をどのように過ごすのか決めることができる。多くの学生は病棟研修を選択するが、抗がん剤のミキシング等を追加で経験することもできる。

【病棟実習中の担当患者の経時的な指導記録】

実習期間中に学生自身が担当した患者の経過記録全体が経時的に分かるよう一覧になっており、複数の患者が担当になった場合でも一覧を確認することで、進捗が分かるようになっていた。その一覧をみることで初回から退院までの間にその位、患者との接点を持つことが出来たかが分かり、指導薬剤師との症例に対する振返りの際にも有効であった。服薬指導の計画を立てる上でも有効なツールとなっていた。

学生の顕著な成長：服薬指導患者の一覧を作成していく事で、今後自分がどの様に患者指導を進めていけばよいか計画を立てていく事を意識して行うようになった。

【実習環境の整った施設】

実習ユニット毎に学生が相互発表を行うなど知識の共有化にも配慮され、薬剤師業務を偏りなく修得できる教育システムがある。

【時間割の整った実習と良い教え方】

実務実習のプランとして講義などきちんと時間割が決められていて、指導薬剤師の教え方が上手である。

【EBM 演習】

統計の専門家が論文の読み方、批判的吟味などについて演習を行う。

【薬剤師の臨床研究】

薬剤師の臨床研究について説明を受け、実際に LC-MS/MS などに触れて体験する。

【がん患者の体験談の聴講】

今年度 2 期から、新たな取り組みとして、がん患者さんに来ていただき、薬学実習生に対してがん治療の経験や気持ちについて語っていただいた。

【専門講座聴講の機会の豊富さ】

各講座（脳血管・心臓・HIV・腎臓など）の聴講や、各医療チームとの多職種連携を通じて、学生が豊富な知識的を得られるような機会を与えている。

【病理解剖を体験】

予定になかったが、病理解剖を体験してきた。

【学生が興味を持つ国家試験のポイントなどをまじえた教育】

病態や薬理などを教える際に、学生が興味を持つ国家試験で問われやすい所などを加え教育する。

【実習環境の整った施設】

- ・ 薬剤師業務を偏りなく教育した。特に音声案内を利用した抗がん剤注射剤の無菌調製システムなどリスクマネジメントを目的とした取り組みも体験できた。
- ・ 実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができたため、実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえる指導体制であった。